

オゼンピック®皮下注2mgを使用される方へ

# オゼンピック®皮下注2mg を正しく使うために

1人ひとりに合わせ、  
シンプルでより良い血糖マネジメントを目指して

監修

新潟薬科大学薬学部臨床薬学教育研究センター センター長・教授

朝倉 俊成 先生



使用前にこの冊子を必ずお読みください。

◆この冊子を大切に保管し、いつでも必要なときに取り出して読めるようにしてください。

詳細については「取扱説明書」をご覧ください。  
また、自己注射は、主治医の説明を聞いた上で  
行ってください。



Sumitomo Pharma

# オゼンピック®について

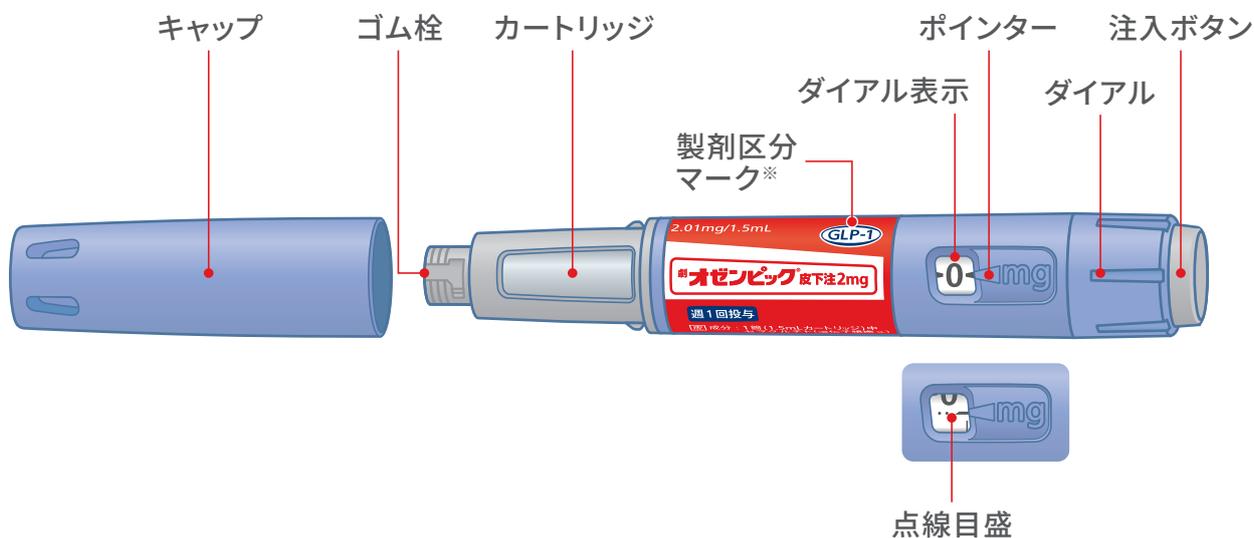
## お薬の名前 **オゼンピック®皮下注2mg**

オゼンピック®は、週1回の使用で血糖値を下げる自己注射薬です。

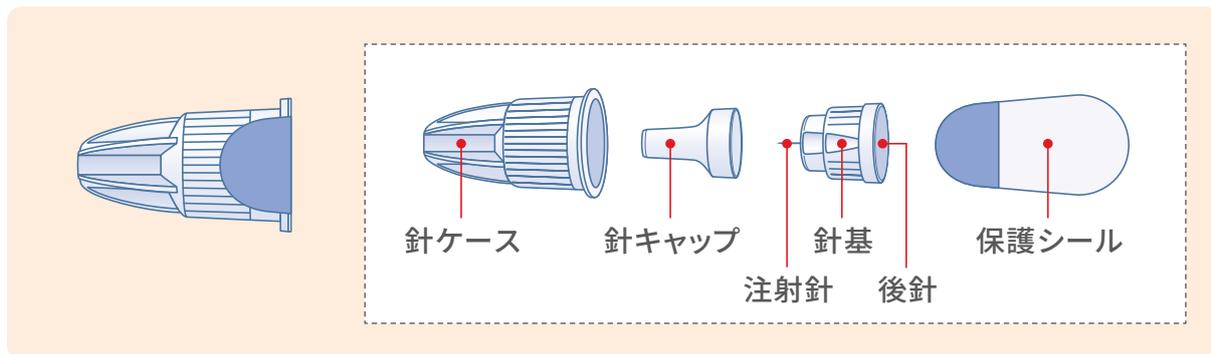
オゼンピック®は、お薬の入ったカートリッジがあらかじめペン型注入器にセットされたプレフィルド製剤です。本体の色はライトブルーです。

### 各部の名称

#### オゼンピック®皮下注2mg



#### 注射針 (A型専用注射針を用いてください。)



イラストはペンニードル®プラス (医療機器認証番号: 227AABZX00122000) を用いています。

#### 製剤区分マーク※

種類・薬効による分類を示すマークです。



は超速効型インスリン製剤、**持効** は持効型インスリン製剤、



はGLP-1受容体作動薬      の仲間であることを示しています。

※ 製剤区分マークは、日本糖尿病協会 糖尿病医薬品・医療機器等適正化委員会にて検討・評価されて制定されました<sup>1-3)</sup>。

1)くすりと糖尿病 5(1)77-83(2016)

2)くすりと糖尿病 5(2)200-205(2016)

3)DM Ensemble Vol.5 No.3 2016 November. pp34

## オゼンピック®の投与量

オゼンピック®は、投与量を0.25mg、0.5mg、1.0mgのいずれかに設定することができます。はじめてオゼンピック®を使うときは、下痢、便秘、嘔吐などの胃腸障害の発現を防ぐ、または、軽減するために、開始用量の0.25mgを週1回投与し、4週間続けます。

その後、維持用量の0.5mgを週1回投与し、4週間続けます。

さらにその後、患者さんの状態に応じて、週1回0.5mgを継続するか、週1回1.0mgを増やすかを主治医が判断します。

投与量を増やす月日などの変更は、主治医の指示に従ってください。

投与のタイミングは毎週行っている活動や習慣などと組み合わせ、忘れずに投与できるようにしましょう。

### 開始用量

**0.25mg**  
4週間

### 維持用量

**0.5mg**  
4週間以上

### 治療の強化

**0.5mg または 1.0mg**  
患者さんの状態にあわせて

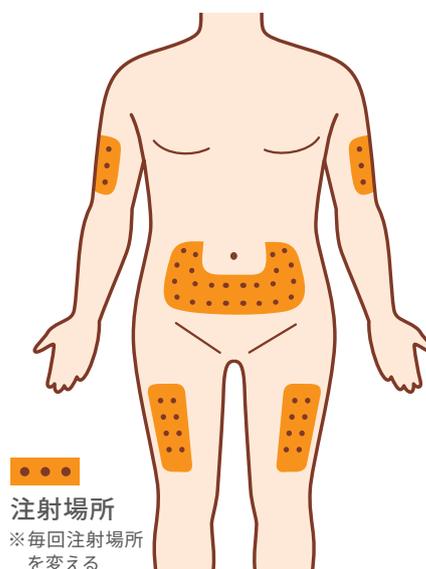
次のページ

注射針の  
取りつけ

に進む

## 注射部位について

注射部位は、おなか(腹壁)、上腕部の外側、太もも(大腿部)の外側が適しています。主治医の指示に従って、“おなか”なら“おなか”のように毎回同じ部位に注射しましょう。しかし、いつも同じ場所ばかりに注射をしてしまうと、その場所(皮膚)が硬くなってしまい、オゼンピック®の効き目が悪くなってしまうことがあります。同じ部位の中で、前回注射した場所より少なくとも2~3cm(指2本以上)ずらして広い範囲に注射しましょう。もし、硬くなったり、“しこり”や“こぶ”のようにになっている場合には、その場所への注射は避けてください。また、主治医に伝えましょう。



## 注射のときに用意するもの

- オゼンピック®
- 注射針
- アルコール綿

# 注射針の取りつけ

手指を石けんでよく洗ってください。

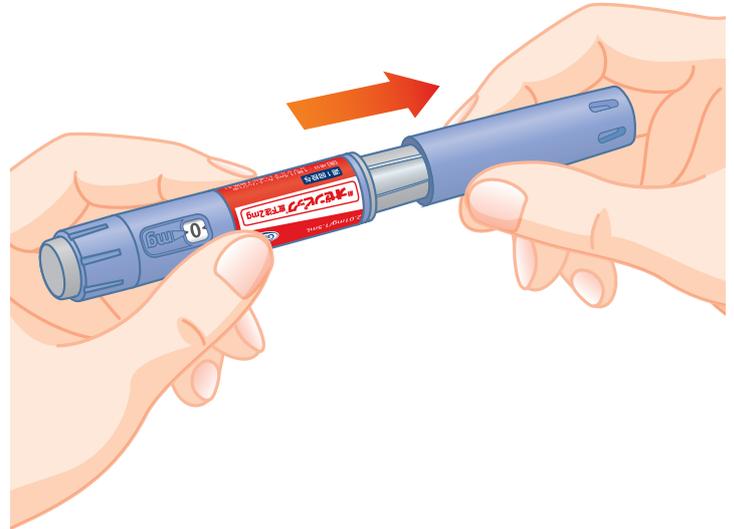
1

お薬の名前と  
製剤区分マークを  
確認します。



2

ペンのキャップを  
はずします。



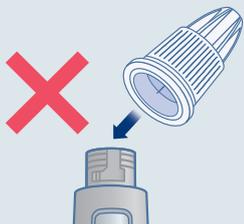
● カートリッジにひびが入っている場合、薬液が無色澄明でない場合は使用しないでください。

5

注射針をゴム栓にまっすぐ奥まで刺し、  
止まるまで回します。

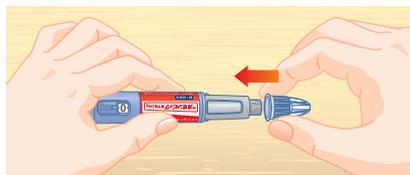


⚠ 注射針を斜めから刺さないでください。



まっすぐに取りつけることができない場合は・・・

① 机の上ですべらせるように移動させる

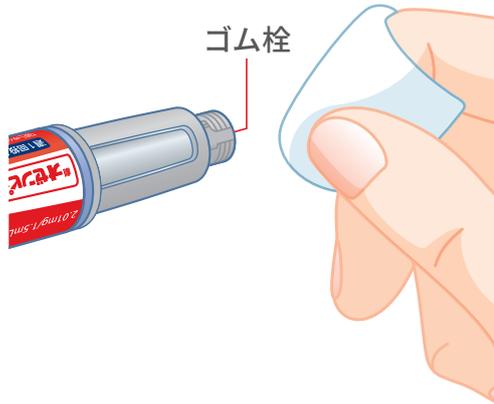


② 本などの折り目を利用して移動させる



3

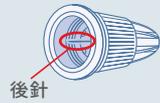
ゴム栓を  
アルコール綿で  
拭きます。



ゴム栓

4

注射針の保護シールを  
はがします。



後針

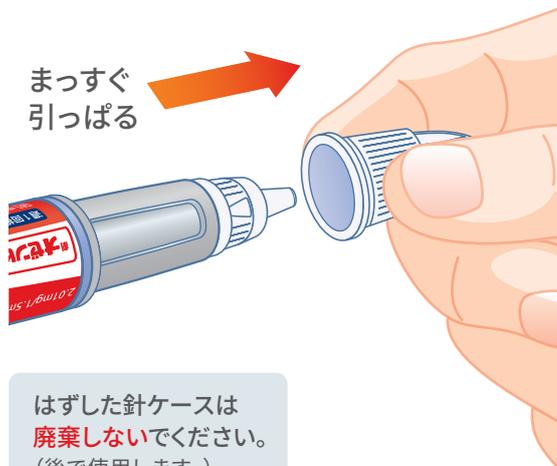
後針が曲がって  
いるなどの異常が  
ないか、確認します。

- 毎回、注射ごとに新しい注射針をご使用ください。一度使用した注射針や、ほかの人が使用した注射針を絶対に使用しないでください。
- 注射針の保護シールが破損している場合は、使用せず新しい注射針に交換してください。

5 へ進む

6

「針ケース」を  
まっすぐ引っぱって  
はずします。



まっすぐ  
引っぱる

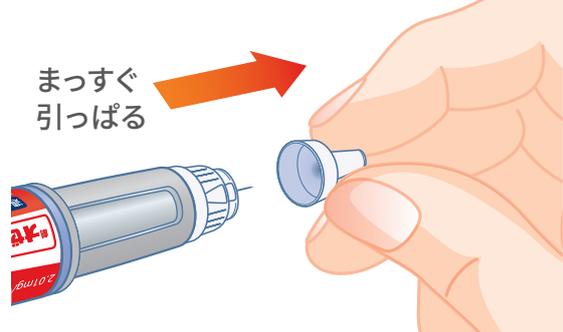
はずした針ケースは  
廃棄しないでください。  
(後で使用します。)



針ケース

7

「針キャップ」を  
まっすぐ引っぱって  
はずします。



まっすぐ  
引っぱる

はずした  
針キャップは  
廃棄します。



針キャップ

● 針先から薬液が出ていることがありますが、故障ではありません。

- 注射針を曲げたり傷ついたりしないでください。

新しいペン  
を使用する  
場合は

次のページ

新しいペン  
を使用する前  
に進む

に進む

ペンの使用が  
2回目以降の  
場合は

8ページ

投与量の設定  
に進む

に進む

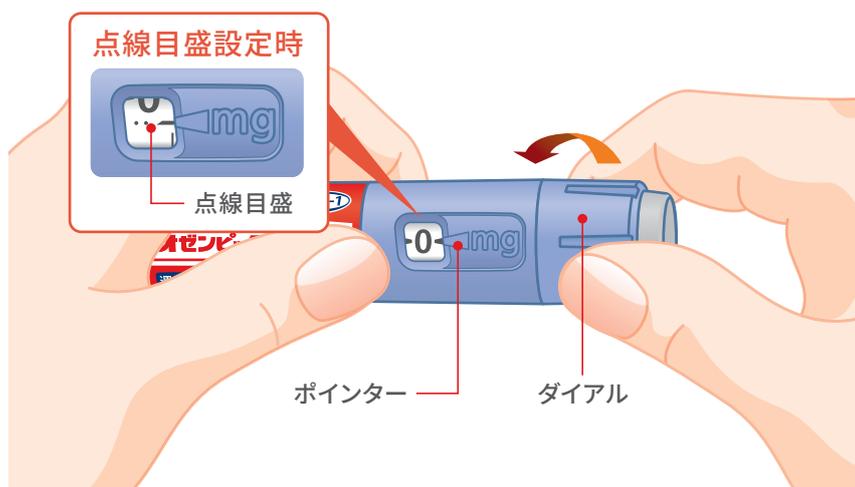
## 動作確認

新しいペンを使用する前には必ず、針先から薬液が出ることを確認してください。

2回目以降は動作確認は不要です。

**a** ダイアルを回し「点線目盛」をポインターに合わせます。

ダイアル表示が「0」であることを確認したうえで、ダイアルを「点線目盛(0のすぐ後)」に設定します。



## [監修の言葉]

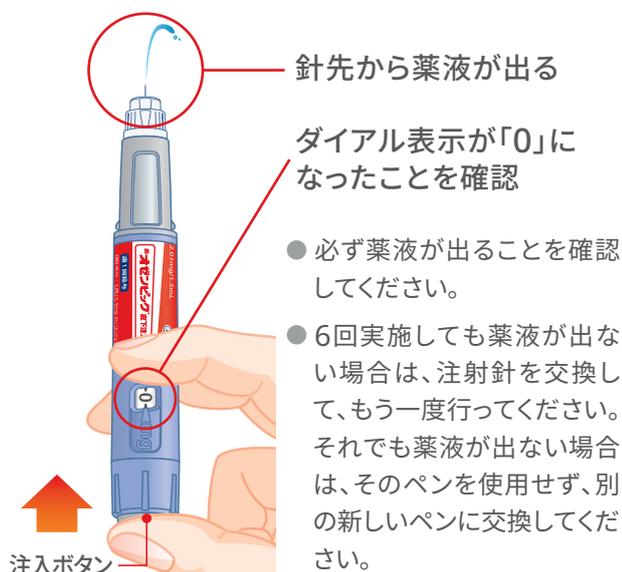
「オゼンピック®皮下注2mgを正しく使うために」は、患者さんが適正(安全・有効)に注射できるように、重要なポイントをまとめています。本来、自己注射製剤はカートリッジ内の余分な空気の排出、注入器の故障や注射針の未装着・ゴム栓への貫通異常などを注入前に確認するために、「試し打ち(空打ち)」を行う必要があります。しかし、オゼンピック®皮下注2mgは、使い始めにのみ試し打ち(空打ち)を注入器の動作確認として行い、2回目以降は不要になっています。そこで、試し打ち(空打ち)の目的に対応してオゼンピック®皮下注2mgの適正使用を確保できる手順を患者さんに理解していただきたく解説を加えます。

- ① 多量の空気(目安として直径5mm以上)がカートリッジ内に混入している場合は、空気が抜けるまで試し打ち(空打ち)を繰り返す。また、その際、注入器の高温環境への放置や凍結、あるいはカートリッジの破損やゴム栓の異常などが多量の空気混入の原因になっていることが考えられるので、十分に点検すること。
- ② 試し打ち(空打ち)を行わない場合、注射針がカートリッジのゴム栓へ(垂直に)貫通していないなどの、正しく注射針が装着されていないトラブルを事前に確認

**b** カートリッジ内の  
気泡を上部に  
集めます。



**c** 針先を上に向けたまま、  
注入ボタンを  
押し込みます。



次のページ  
投与量の設定  
へ進む

できない。したがって、注射針の保護シールをはがしたときに後針が曲がっていないことを確認し、注射針の後針をゴム栓に垂直に穿刺し、注入後に取りはずした注射針の後針に異常がないことを確認すること。

- ③ 試し打ち（空打ち）を行わない場合、事前に針詰まりを確認できない。しかし、注入ボタンを押したときにダイヤル表示が「0（ゼロ）」にならないことなど、異常を示すポイントがあるのでよく理解しておくこと。

オゼンピック®皮下注2mgは、2回目以降の注射で試し打ち（空打ち）を行いませんが、インスリンの自己注射でも試し打ち（空打ち）が不要であるということではありません。インスリン製剤の投与量は患者さんによって異なりますし、注射ごとに調節することもあります。また、インスリンでは注入量がすぐに血糖値に反映されますので、試し打ち（空打ち）で常に精度を確認しておく必要があります。以上をご理解いただき、本剤が適正に使用できるよう記載の手順に沿って操作していただきたいと思ひます。

# 投与量の設定

8

## ダイヤル表示の確認

まずは、ダイヤル表示が「0」になっていることを確認します。



9

## ダイヤルを回し、指示された量に合わせます。

ダイヤルを回し、指示された量(0.25mg、0.5mg、1.0mgのいずれか)をポインターに合わせます。

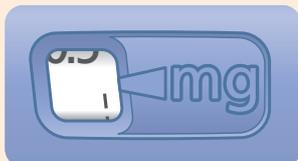


- 回し過ぎたときは、逆に回して正しい量に戻してください。
- ダイヤルを戻すとき、注入ボタンを押さないでください。

- ダイヤルは、1.0mgまでしか回りません。また、カートリッジ内の残量以上は回りません。  
ダイヤルが止まったら、それ以上無理に回さないでください。
- 残量が注射する量より少ない場合は、新しいペンを使用してください。
- 0.25mg、0.5mg、1.0mg以外のところでは、絶対に投与しないでください。  
正しい量を設定するため、ダイヤル表示の数字をきちんとポインターに合わせてください。



ポインターからずれている場合



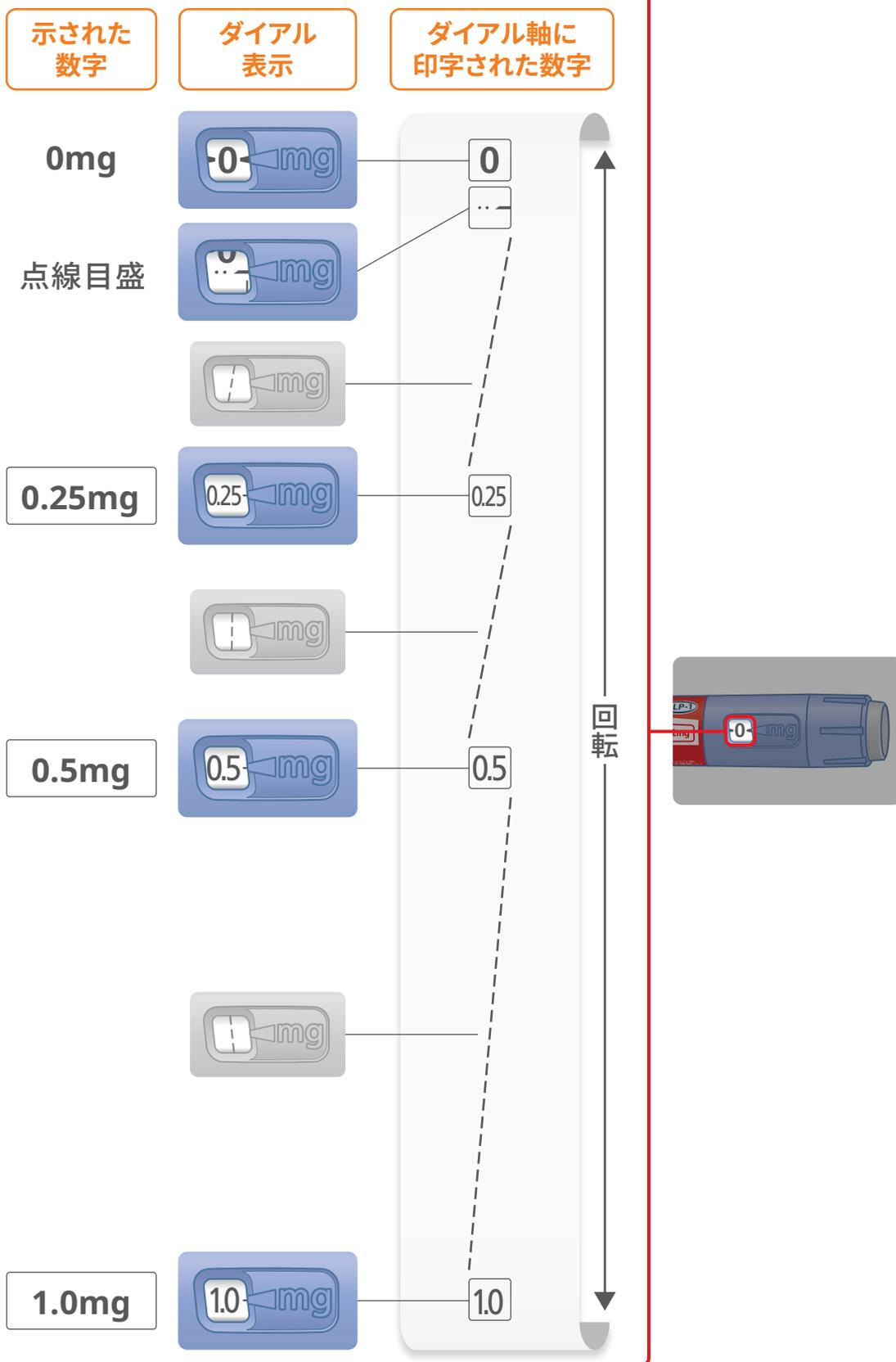
正しくポインターに合わせた場合



ダイヤル表示の数字をきちんとポインターに合わせる

## オゼンピック®のダイヤル表示の見方

ダイヤルを回すと、以下のダイヤル表示が現れます。



次のページ

注射

へ進む

# 注射

## 10 注射部位を消毒します。



## 11 皮膚の面に対して、まっすぐに根元まで刺してください。

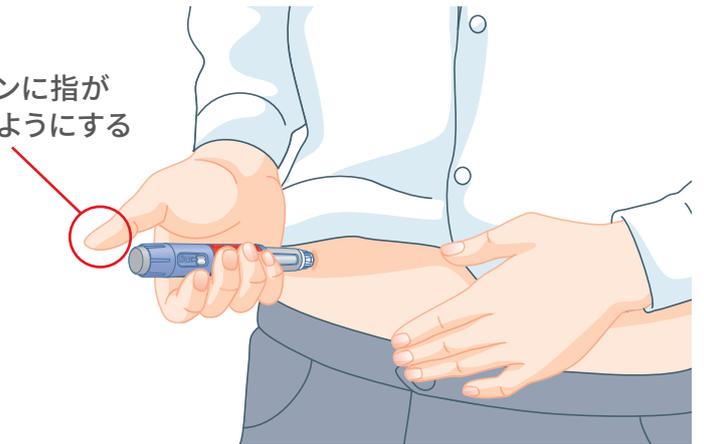
### 【4mm針を使う場合】

原則、成人・小児において、皮膚をつまむことなく、皮膚の面に対して90度に穿刺することが可能です。ただし、年齢や体格により、手技が異なる場合がありますので、主治医の指示に従ってください。

### 【5mm以上の針を使う場合】

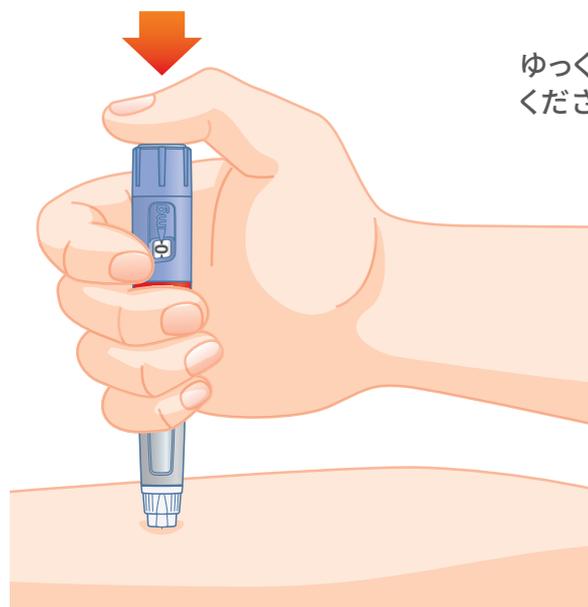
筋肉内注射を防ぐため、注射部位をつまむ必要があります。

注入ボタンに指が触れないようにする



## 13 6秒以上注射針を刺したままにします。

完全に薬液を注入するため、注入ボタンを押した状態で、**6秒以上**注射針を刺したままにしてください。



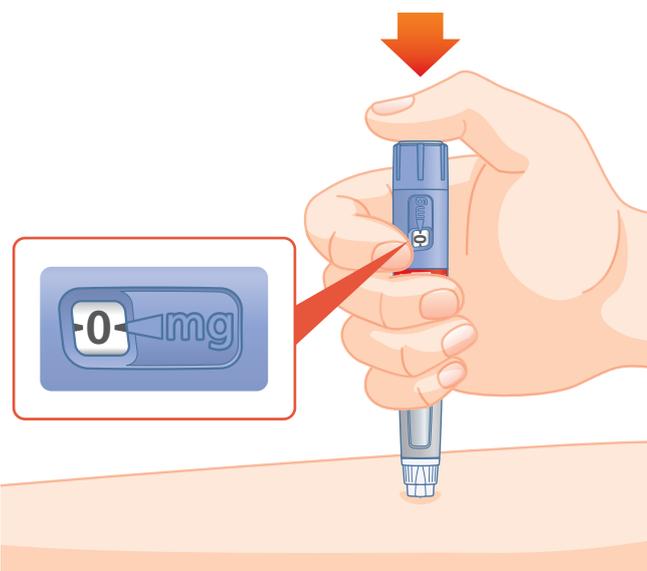
ゆっくり数えてください



## 12

## 「カチッ」と音がするまで 注入ボタンを真上から押してください。

「カチッ」という音がするまで、注入ボタンを真上から押してください。  
ダイヤル表示が「0」に戻ります。



- 必ず注入ボタンを押してください。ダイヤルを回すだけでは、薬液は注入できません。
- 注入ボタンを押すとダイヤル表示が回るので、ダイヤル表示に指が触れないようにしてください。
- ダイヤル表示が「0」に戻ったことを必ず確認してください。

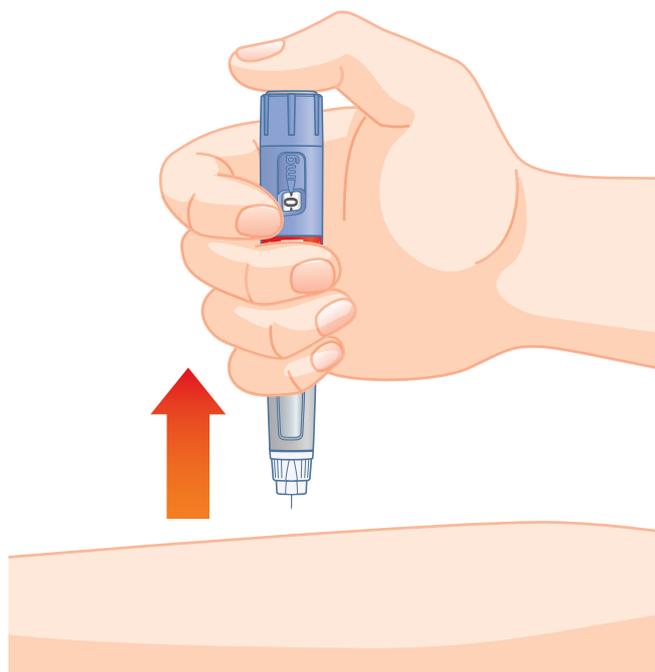
注入ボタンを押し続けても、ダイヤル表示が「0」に戻っていない場合

→「故障かなと思ったら」(裏表紙) 参照

13 へ進む

## 14

## 注入ボタンを押したまま注射針を抜いてください。



- 注射針を抜いた後、針先に滴がついていることがあります。注射した量に影響はありません。
- まれにカートリッジ内に血液が混入し、薬液に浮遊物がみられたり、変色したりすることがあります。その場合は、新しいペンをご使用ください。

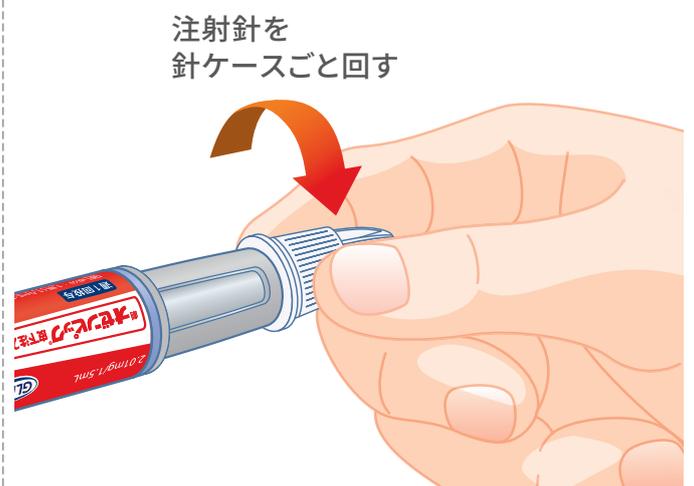
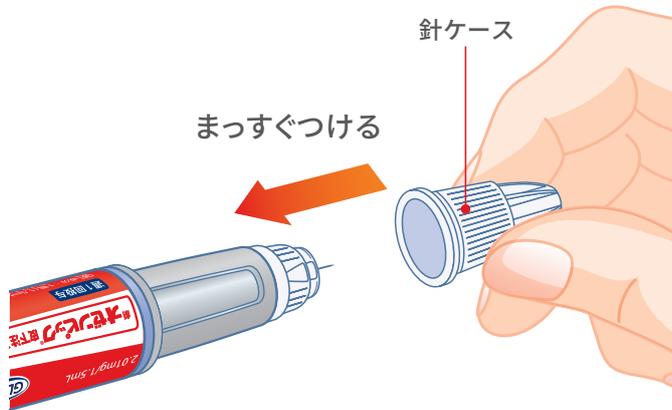
次ページ/上段

注射が  
終わったら

へ進む

## 15

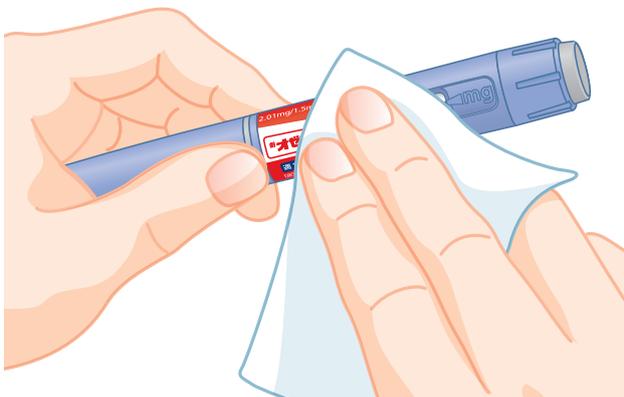
注射針に「針ケース」をまっすぐつけ、  
針ケースごと回します。



● 針キャップはつけないでください。

## お手入れ

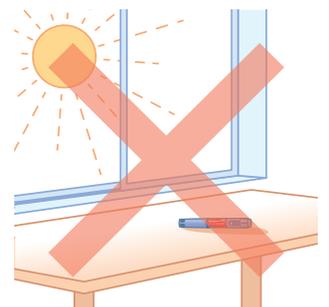
- ・汚れは、中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭き取ってください。
- ・ほこりやゴミは、やわらかいブラシで払った後、やわらかい布で軽く拭いてください。



- 直接水で洗わないでください。万一、水などがかった場合は、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。
- 油をさしたりしないでください。

## 保管方法

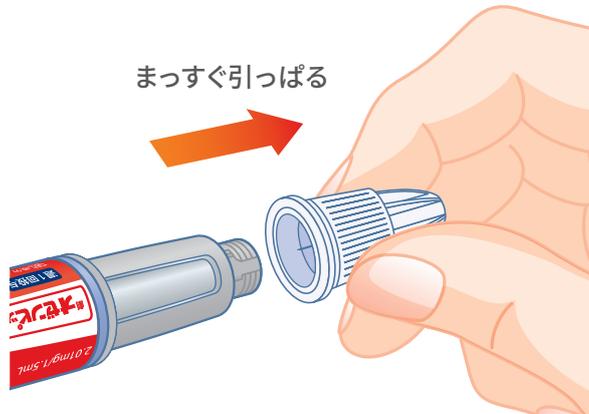
- ・オゼンピック®や注射針などは、お子様などの手の届かないところに保管してください。
- ・次のような場所は避けてください。
  - ほこりやゴミが付着しやすい場所
  - 汚れやすい場所
  - 水のかかりやすい場所
  - 直射日光のあたる場所(窓辺など)
  - 極端に高温または低温になる場所(自動車内など)



- ・外箱及び本体のラベルに表示してある使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

16

まっすぐ引っぱって  
注射針をはずします。



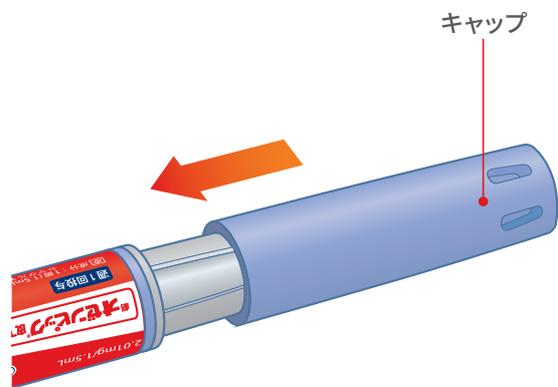
はずした注射針は、後針が折れているなどの異常がないか確認したうえで、**廃棄**します。



使用済みの注射針は、取り扱いに十分注意し、医療従事者の指示に従い危険のないように捨ててください。

17

ペンにキャップを  
つけます。



残量がなくなった  
ペンは注射針を  
はずして**廃棄**します。



- 注射針は毎回新しいものを、必ず注射直前に取りつけてください。

### 未使用の場合

冷蔵庫で保管してください。

#### ⚠ 冷蔵庫で保管する場合の注意

- 凍結させないようにしてください。フリーザーの中や冷蔵庫内の冷風が直接あたるような場所には置かないでください。
- 一度凍ったオゼンピック®は使用しないでください。
- 冷蔵庫内に食べ物などとは区別して清潔に保管してください。

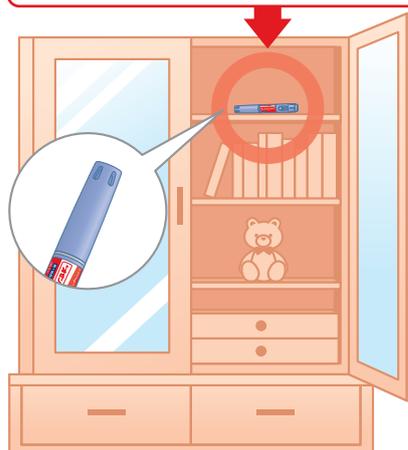


### 使用中の場合

室温(30℃以下)または冷蔵庫で  
保管してください。

- 使用開始後8週間以内に使用してください。

保管するときは必ず注射針をはずし、  
ペンのキャップをつけてください。



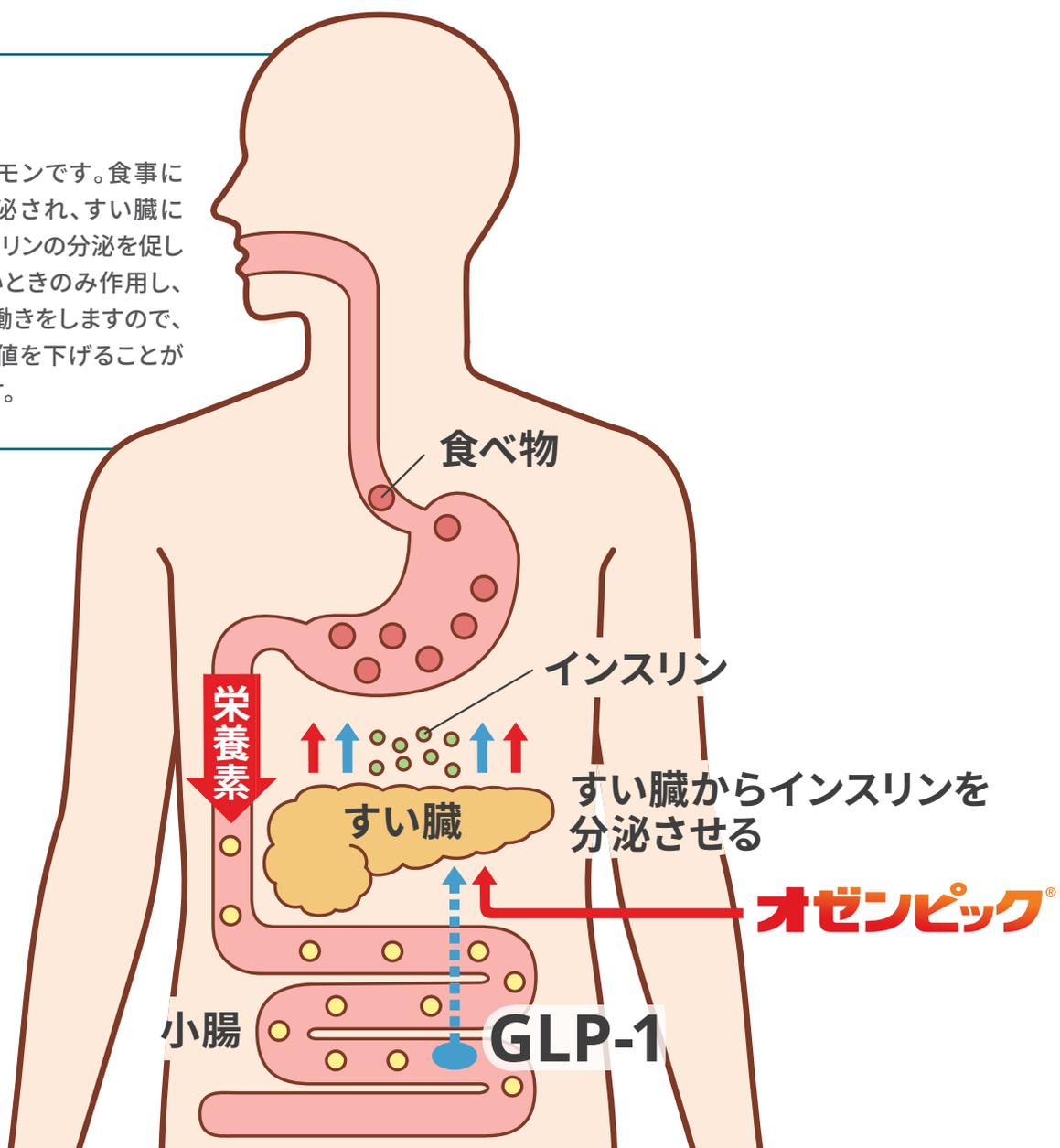
# 中に入っているお薬について

持続性GLP-1受容体作動薬 **オゼンピック®**は、  
2型糖尿病のための週1回投与の自己注射のお薬です。  
インスリン分泌を促すホルモン「GLP-1(ジーエルピーワン)」をもとに、  
その効果が長続きするように開発されました。

- オゼンピック®は、糖質を摂取したときにインスリンを出させて、HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)、空腹時血糖値、食後血糖値を低下させます。
- インスリンを出させ過ぎたり、血糖値を下げ過ぎたりすることが少なく、ほかの糖尿病薬と併用しないときには低血糖を起こしにくいお薬です。  
ただし、SU(スルホニルウレア)薬やインスリンなど、ほかの糖尿病薬などを併用している場合には低血糖が起こりやすくなるため注意が必要です。低血糖の症状を感じたら、すぐに主治医に相談しましょう。また、定期的に通院し、血糖値を確認してもらいましょう。
- インスリンをつくるすい臓の $\beta$ (ベータ)細胞の働き(機能)をみる指標を改善します。
- このほかに、体重が増えにくいことなどが確認されています。

## GLP-1は、

体内にあるホルモンです。食事により小腸から分泌され、すい臓に働きかけてインスリンの分泌を促します。血糖が高いときのみ作用し、血糖値を下げる働きをしますので、必要以上に血糖値を下げることはないのが特徴です。



# オゼンピック®をお使いになる患者さんご家族の方へ

## — 注意事項とQ&A —

ご不明な点は医療従事者またはノボケア相談室、くすり情報センターにお問い合わせください。

本剤の使用にあたっては、必ず医療従事者から使用方法に関する説明を受けてください。

必ず主治医に指示された製剤であることを確認してください。間違った製剤を使用すると健康被害が生じるおそれがあります。

オゼンピック®を目の不自由な方がご使用になる場合には、操作法の訓練を受けた方の手助けを受けてください。

誤った操作に起因する事故及び故障につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

処方されたオゼンピック®をほかの人に渡したり、ほかの人と一緒に使ったりしないでください。

### ⚠ 注意

- 落としたり衝撃を与えたりしないでください。ペンの故障や液漏れの原因となることがあり、健康被害が生じるおそれがあります。落としてしまった場合は、投与直前に新しい注射針を取りつけ、「新しいペンを使用する前に」(6ページ)の方法で、注射針の先に薬液が出ることを確認してください。
- 分解・改造しないでください。分解すると使用できなくなります。
- 薬液をつめかえて再使用しないでください。
- オゼンピック®や注射針を紛失または故障した場合などに備えて、それらの予備を必ずお持ちください。

### 注射針の取りつけ

注射針はA型専用注射針を用いてください。

[オゼンピック®はA型専用注射針との適合性の確認をペンニードル®で行っています。]

**Q. オゼンピック®とA型専用注射針との装着時に液漏れなどの不具合が認められました。どうしたらよいですか。**

主治医の指示に従い、新しいオゼンピック®や注射針に取り替えるなどの処置を行ってください。

**Q. なぜ注射針はまっすぐ刺すのですか。**

斜めから刺すと後針が曲がり、薬液が出なくなるおそれがあります。また、薬液が正しく注射されないため、血糖マネジメントが乱れるおそれがあります。

**Q. 毎回、注射ごとに新しい注射針を使用するのはなぜですか。**

針詰まりや感染症の原因となったり、正確な量を注射できなくなったりすることがあります。一度使用した注射針や、ほかの人が使用した注射針は絶対に使用しないでください。

**Q. 注射針の保護シールが破損していました。使用しない方がよいでしょうか。**

滅菌性が保証できないため、使用せず新しい注射針に交換してください。

**Q. 針キャップをはずしたら、針先から薬液が出ていました。故障でしょうか。**

故障ではありませんが、新しいペンを使用する前には「新しいペンを使用する前に」(6ページ)の方法で、注射針の先に薬液が出ることを確認してください。

**Q. 注射針を曲げたり傷つけたりした場合は使用しない方がよいでしょうか。**

注射時の痛みのもとになったり、注射針が折れて皮下に残ったりすることがあります。使用せず新しい注射針に交換してください。

**Q. 注射の度に空打ちをする必要はありますか。**

このペンは、注射の度に空打ちをする必要はありません。

初回、新しいペンを使用する前にのみ、必ず針先から薬液が出ることを確認してください(動作確認)。

2回目以降のペンの使用の際は、この動作確認は必要ありません。→「新しいペンを使用する前に」(6ページ)参照。

# オゼンピック®をお使いになる患者さんとご家族の方へ

## — 注意事項とQ&A —

### 新しいペンを使用する前に(動作確認)

#### Q. 薬液が出ません。

新しいペンをはじめて使うときに、動作確認を6回実施しても薬液が出ない場合は、後針が曲がっている、ゴム栓に正しく刺さっていない、または針穴が詰まっていることがあります。注射針を交換して、もう一度動作確認を行ってください。それでも薬液が出ない場合は、そのペンを使用せず、別の新しいペンに交換してください。

#### Q. 薬液は出ませんが、ダイアル表示は回って「0」になりました。

必ず薬液が出ることを確認してください。薬液が出ない場合は、たとえダイアル表示が回ったとしても、本剤を打つことはできません。

#### Q. カートリッジ内の小さな気泡が残ってしまいました。

カートリッジ内の小さな気泡は完全に打ち出すことはできませんが、これは異常ではありません。薬液が出ることが確認されていれば注射に影響はありません。

### 投与量の設定

#### Q. ダイアルを回し過ぎてしまいました。

逆に回して正しい量に戻してください。逆に回すと音が変わりますが故障ではありません。なお、ダイアルを戻すときは注入ボタンを押さないようにしてください。注入ボタンを押すと、針先から薬液が出てしまいます。

#### Q. ダイアルが回りません。

ダイアルが止まったら、それ以上無理に回さないでください。故障の原因になります。ダイアルは、1.0mgまでしか回りません。また、カートリッジ内の残量以上は回りません。残量が注射する量より少ない場合は、新しいペンを使用してください。

#### Q. ダイアル表示が投与量から少しずれても正しい量が出ますか。

ダイアル表示が0.25mg、0.5mg、1.0mg以外のところでは、絶対に投与しないでください。正しい量を設定するため、ダイアル表示の数字をきちんとポインターに合わせてください。

### 注射

#### Q. 投与量、注射する部位などは、自分で変更してもよいでしょうか。

指示された投与量などを勝手に変更したり治療を中断すると、血糖マネジメントが乱れるおそれがあります。投与量、注射する部位などは、必ず主治医の指示に従ってください。

#### Q. ダイアル表示に指が触れないようにするのはなぜですか。

ダイアル表示は注入ボタンを押すと回りますので、指が触れないようにしてください。

#### Q. 注入ボタンを押し続けても、ダイアル表示が「0」に戻りません。

後針が曲がっている、ゴム栓に刺さっていない、または針穴が詰まっていて、薬液が注入されていない可能性があります。

→「故障かなと思ったら」(裏表紙)参照

#### Q. 注射針を抜いたら針先に滴がついていました。注射した量に影響はありますか。

針先に滴がついていることがありますが、注射した量に影響はありません。

## 注射が終わったら

- Q. 針ケースはなぜまっすぐにつけるのですか。**  
斜めからつけると、注射針が針ケースを突き抜けることがあります。針ケースはまっすぐにつけてください。
- Q. 針キャップはなぜつけないのですか。**  
注射針を指などに刺して思わぬけがをすることがあるため、針キャップはつけないでください。
- Q. 使用済みの注射針の廃棄方法が通常のゴミと違うのはなぜですか。**  
感染症を防ぐためです。使用済みの注射針の廃棄方法については医療従事者の指示に必ず従ってください。
- Q. 使用済みのペン(残量が注射する量より少なくなったペン)は、どのように廃棄したらよいですか。**  
注射針をはずし、医療従事者の指示に従って危険のないように捨ててください。
- Q. 次回の注射針を取りつけておいても問題ないでしょうか。**  
注射針は毎回新しいものを、必ず注射直前に取りつけてください。
- Q. 介助者に使用済みの注射針の処理を行ってもらっても問題ないでしょうか。**  
介助される方が使用済みの注射針の処理を行う場合は、注射針が刺さって感染症の原因となることがあるため、十分に注意してください。

## 注射を忘れてしまった場合

### 次の投与予定日まで2日(48時間)以上の場合

気づいた時点で直ちに1回分を投与し、その後はあらかじめ決められた曜日に投与してください。

例)月曜日が投与日の場合



### 次の投与予定日まで2日(48時間)未満の場合

忘れた分は投与せず、次の投与予定日に1回分を投与してください。

倍の量を投与するなど、忘れた分を埋め合わせないでください。

## お手入れ

- Q. 水で洗ってもよいですか。**  
直接水で洗わないでください。オゼンピック®には防水処理が施されていないので、故障の原因となることがあります。万一、水などがかった場合は、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。
- Q. 油をさしてもよいですか。**  
故障の原因となることがあります。油をさしたりしないでください。

# オゼンピック®をお使いになる患者さんとご家族の方へ

## — 注意事項とQ&A —

### 保管

- Q.** 外箱及びペンのラベルに表示してある使用期限が過ぎてしまいました。使用できますか。使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- Q.** 注射針はなぜ、保管するときにはずすのですか。  
注射針をはずさずに保管すると、温度変化などにより針先から薬液が漏れたり、カートリッジ内に気泡ができることがあります。針詰まりや感染症の原因となるおそれもあります。保管するときには必ず注射針をはずしてください。
- Q.** オゼンピック®を凍らせてしまいました。使わない方がよいでしょうか。  
一度凍ったオゼンピック®は使用しないでください。健康被害が生じるおそれがあります。

### その他の注意事項

- 【注射部位反応】注射した部位に発疹、はれ、かゆみが見られることがあります。そのときは主治医に相談してください。
- 【感染症】不潔な注射により、注射部位に感染症を起こし、痛みと熱が出る場合があります。そのときはすぐに主治医に連絡してください。
- 【皮下の変化】いつも同じ部位に注射すると、皮膚がへこんだり逆に膨れたりすることがあります。主治医の指示どおり注射場所を変えてください。
- 【その他】カートリッジの内壁に付着物がみられたり、薬液中に塊や薄片がみられる場合は使用しないでください。

### インスリンからオゼンピック®に治療変更をした患者さんへ

インスリンからオゼンピック®に治療変更した場合に、まれに高血糖をきたすことがあると報告されています。

- ・もしも高血糖になった場合は、速やかに主治医に相談してください。
  - ・血糖測定などで高血糖になっていないかをご確認ください。
- オゼンピック®はインスリンではありません。

# オゼンピック®自己注射チェックリスト

新しいペンを使用する場合	ペンの使用が2回目以降の場合	チェック項目	/	/	/	
注射針の取りつけ	注射針の取りつけ	—	手指を石けんでよく洗いましたか			
		①	お薬の名前が「オゼンピック®皮下注2mg」であることを確認しましたか			
		②	ペンのキャップをはずした後、カートリッジにひびが入っていないこと、薬液が無色澄明であることを確認しましたか			
		③	ゴム栓をアルコール綿で拭きましたか			
		④	注射針の保護シールをはがした後、注射針の後針が曲がっているなどの異常がないことを確認しましたか			
		⑤	注射針をゴム栓にまっすぐ奥まで刺した後、止まるまで回しましたか			
		⑥	「針ケース」をまっすぐ引っぱってはずした後、針ケースは廃棄せずにおいてありますか(後で使用します)			
新しいペンを使用する前に 動作確認	2回目以降は動作確認は不要です。	⑦	「針キャップ」をまっすぐ引っぱってはずしましたか(はずした針キャップは廃棄します)			
		a	「点線目盛」を正しくポインターに合わせましたか			
		b	カートリッジ内の気泡を上部に集めましたか			
投与量の設定	投与量の設定	c	針先を上に向けたまま注入ボタンを押し込んだ後、薬液が出てダイアル表示が「0」になったことを確認できましたか			
		⑧	ダイアル表示が「0」になっていることを確認しましたか			
注射	注射	⑨	指示された量(0.25mg、0.5mg、1.0mgのいずれか)を正しくポインターに合わせましたか			
		⑩	注射部位を消毒しましたか			
		⑪	皮膚の面に対して、まっすぐに根元まで刺しましたか			
		⑫	ダイアル表示が「0」に戻ったことを確認できましたか			
		⑬	注入ボタンを押した状態で6秒以上注射針を刺したままにしましたか			
注射が終わったら	注射が終わったら	⑭	注入ボタンを押したまま注射針を抜きましたか			
		⑮	注射針に「針ケース」をまっすぐつけた後、針ケースごと回しましたか			
		⑯	はずした注射針は、後針が折れているなどの異常がないことを確認できましたか			
その他	その他	⑰	ペんにキャップをつけましたか			
		—	注射針は毎回新しいものを使っていますか			
		—	使用中のオゼンピック®を保管する際は注射針をはずし、ペンのキャップをつけていますか			
		—	未使用のオゼンピック®は冷蔵庫で保管していますか			

# 故障かなと思ったら

	現象	原因	対処法
初期状態	カートリッジの中に気泡がある	注射針を交換したときにカートリッジの中に気泡が入った可能性があります。	針先を上に向けてオゼンピック®を持ち、カートリッジの上部を指で軽く数回はじいて、カートリッジ内の気泡を上部に集めた後、「新しいペンを使用する前に」(6ページ)の方法で薬液が出ることを確認してから注射をしてください。 ●カートリッジ内の小さな気泡は完全に打ち出すことはできませんが、これは異常ではなく、薬液が出ることを確認されていれば、注射に影響はありません。
	注射針が取りつけられない	注射針に異常がある可能性があります。	①、②の順で対処してください。 ①注射針を交換してください。 ②注射針を交換しても取りつけられない場合は、新しいペンに交換してください。
	主治医から指示された量に設定できない ダイヤルが回らない	残量が不足しています。(カートリッジ内の残量以上の量は設定できません。)	新しいペンに交換してください。
新しいペンを使用する前に	「新しいペンを使用する前に(動作確認)」(6ページ)で、薬液が出ない	注射針が曲がっている、または針穴が詰まっています。	新しい注射針に交換してください。 ●注射針は「注射針の取り付け」(4ページ)の説明どおり正しく取りつけてください。また、使用前に注射針を曲げたり傷つけたりしないでください。 ●「新しいペンを使用する前に」(6ページ)の方法で、薬液が出ることを確認した後、注射を行ってください。
注射	ダイヤル表示が「0」に戻っていない	注射針が曲がっている、または針穴が詰まっているため、薬液が出ていません。	新しい注射針に交換してください。 ●注射針は「注射針の取り付け」(4ページ)の説明どおり正しく取りつけてください。また、使用前に注射針を曲げたり傷つけたりしないでください。 ●「新しいペンを使用する前に」(6ページ)の方法で、薬液が出ることを確認した後、注射を行ってください。
		注入ボタンを押してダイヤルが回り始めてから、ダイヤル表示が「0」になるまでに時間差があるために、注入ボタンから指を離してしまった可能性があります。	注入ボタンを、ダイヤル表示が「0」になるまで押し続けてください。注射針を抜いた後に気づいた場合は、設定した量の一部の薬液が注射されなかったおそれがあります。主治医に相談してください。

●厳密な品質管理のもとにオゼンピック®を皆様のお手元にお届けしておりますが、万一故障や何らかの不具合がある場合は決して使用せず、医療従事者に相談してください。

オゼンピック®に関するお問い合わせ(治療内容に関しましては、主治医にご相談ください)

ノボ ルディスク ファーマ株式会社

住友ファーマ株式会社

オゼンピック®皮下注2mg 使い方動画



<https://video.novonordisk.com/secret/74644738/5533ef1113360de41bb728394bd830fe>

注射針の取り付けや動作確認、投与量の設定などについて、動画でもご確認いただけます。

ノボケア相談室



月曜日から金曜日  
(祝日・会社休日を除く)

☎ 0120-180363



夜間及び  
土日・祝日・会社休日

(注) お問い合わせ内容によっては、翌営業日に回答させていただく場合がございます。

☎ 0120-359516

くすり情報センター

0120-885-736

受付：月曜日から金曜日まで  
(祝日・会社休日を除く)

ノボ ルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1  
www.novonordisk.co.jp

住友ファーマ株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8  
https://www.sumitomo-pharma.co.jp/